

看護学生の職業に対する意識調査

—— 入学年次よりの比較 ——

青木 康子 陣田 泰子 竹内 文生 井澤 方宏 大江 基
加城貴美子 國岡 照子 柴原 君江 美田 誠二

要 旨

教育を実際に展開するにあたっては、学生の社会的背景や職業に対する意識等の実態を把握することは重要であると考え、昨年（1995年）に引き続き本短大の1年生（1996年4月入学）を対象として、入学の動機、卒業後の進路、職業イメージ（看護婦、助産婦、保健婦についてのイメージ）、キャリア発達等について調査を行った。なお、1996年入学生（以下「96年入学生」という）から新たに推薦入学制度を設けた。

その結果は、1) 96年入学生は、1995年入学生（以下「95年入学生」という）に比較して平均年齢の低下、通学に要する時間の短縮、予備校での学習経験者の減少、他の学校の受験率の低下、看護職希望者の増加等の傾向がみられ、推薦入学制度の影響を伺わせる。2) 96年入学生には高学歴の傾向がみられる。3) 卒業後の進路は進学希望者が最も多いが、95年入学生に比較して減少している。4) 96年入学生の看護婦、助産婦、保健婦各々に対するイメージの測定値の平均値によるプロフィールは、95年入学生とほぼ同様である。5) 保健婦のイメージは、両年の入学生ともに得点の平均値が±1.00以内である形容詞が多く（80%、67%）、看護婦、助産婦に比し、狭い幅のプロフィールとなっている。6) 進路決定時期は、96年入学生は95年入学生より小・中学生の早期に進路決定をしている者が多いが、両年の入学生において明らかな差はみられなかった。7) 看護婦のイメージでは、10項目中の5項目において、両年の入学生に明らかな差が認められた。8) 自尊感情は、95年入学生では、一般女子の総得点の平均値より低かったが、96年入学生は、ほぼ一般女子の値であった。

キーワード：学生の社会的背景、卒業後の進路、職業イメージ、職業の継続、自尊感情（Self-Esteem）

I. はじめに

本看護短期大学は、人として成長しながら幅広い視野を持つ看護専門家を育成するという教育理念のもとに、平成7年（1995年）4月開学した。

教育を実際に展開するにあたっては、学生の社会的背景や入学の動機、職業に対する意識等の実態を把握することは重要であり、また学習とともにどのように変容し発達してゆくかを科学的に把握することは、学校の運営や教育課程の編成をより効果的に発展させる要素になるとの観点から、昨年の調査に引き続き¹⁾本学に2年生として入学してきた一年生（以下「96年入学生」という）を対象として、次のような項目について調査を行った。

- (1) 主な社会的背景及び入学動機等
- (2) 看護婦、助産婦、保健婦のイメージ
- (3) キャリア発達

また、昨年と異なった点としては、96年入学生から新たに推薦入学制度を設け、16名（入学者80名中）

が推薦で入学している。出願資格は、川崎市内の高等学校を卒業する見込みがあり、卒業後は川崎市内に就業する意思があること等が条件となっている。

研究方法

- 1 調査対象：3年課程看護短期大学（96年入学生）一年生 80名（女子77名、男子3名）を対象として、同意の得られた77名（女子73名、男子3名）について調査を行った。回答率は96.3%であった。
- 2 調査日：平成8年4月19日（昨年は平成7年7月21日に実施）
- 3 調査方法：半構成的質問紙調査、集合調査
- 4 調査内容：
 - 1) 主な社会的背景及び入学動機等としては、高等学校での課程、受験資格、住居、婚姻関係、家族等に医療関係者の有無、予備校での学習、他の学校の受験状況、本短大を希望した理由、卒業後の進路、希望していた職業の種類、看護

職希望の程度

- 2) 看護職のイメージとしては、看護婦のイメージ、助産婦のイメージ、保健婦のイメージ
- 3) キャリア発達としては、進路決定の時期、職場の選択、職業の継続意志、職場及び看護婦のイメージ、ライフスタイル、自尊感情（Self-Esteem）について調査した。

5 尺度及び用語

- 1) SD 法
- 2) 用語の定義：キャリア発達、自尊感情（Self-Esteem）、ライフスタイルについては、既報¹⁾と同様である。

Ⅲ. 結果及び考察

回答者（96年入学生）の平均年齢は18.7歳（18～36歳）で、20歳未満が全体の90.9%を占めており、昨年の1年生（以下「95年入学生」という）の19.1歳（18～36歳）、83.1%よりは多少年齢が若くなっており推薦入学制度の影響を伺わせる。

1. 主な社会的背景及び入学の動機等

- 1) 高等学校での課程は、普通科が74名（96.1%）、理数科が1名、その他が1名、記載なしが1名である。
- 2) 受験資格は、高等学校卒業が76名（99.0%）、大学検定が1名である。

また、卒業した学校は、高等学校が76名、短期大学が2名、4年制大学が4名、高等専門学校が1名である。短期大学以上の学校を卒業した者は合計7名（9.1%）で、95年入学生の5名（6.5%）よりは多く、そのうち4年制大学の卒業生が4名いることは96年入学生の特徴と言える。

る。

- 3) 現在の住居は、自宅が47名（61.0%）、アパート・マンションが26名（33.8%）、下宿が2名、寮が1名、その他が1名で、95入学生と大差はない。推薦入学制度との関連から、自宅からの通学者をみると、95年入学生が43名（55.8%）あったので、4名の増加がみられるが大きな変化はないようである。また、同居者がいるのは53名（68.8%）で、内訳は52名が家族で、1名が親戚である。同居者なし（ひとりで生活）は24名（31.1%）である。専用の個室は、有りが63名（81.8%）、なしが10名、どちらともいえないが4名である。
- 4) 通学に要する時間（片道）は、1時間未満が38名（49.4%）、1時間以上が39名（50.6%）で平均は55.8分である。95年入学生は1時間以内が21名（27.2%）、1時間以上が56名（72.7%）であった²⁾ので、通学に要する時間は短縮の傾向にあるといえ、推薦入学制度の影響を伺わせる。しかし、通学時間が2時間以上が7名おり、最高は2時間45分を要しており、首都圏の特性とはいえ、健康上の配慮が必要であろう。
- 5) 入学前に就業（就学期間中のアルバイトは除く）したことがあるのは2名で、なしは74名、記載なしが1名である。
- 6) 信仰している宗教があるのは4名、なしは73名である。
- 7) 婚姻関係は、未婚が76名、既婚が1名である。
- 8) 家族、親戚、知人の中に医療関係者のいる者は、39名（50.6%）で、95年入学生の46名（59.7%）よりは少なくなっている。その職種別内訳は表1のとおり、看護職が30名

表1 医療関係者ありの職種別内訳（複数回答）

職種別内訳	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
看護職	34	44.2	30	39.0
医師・歯科医師	8	10.4	6	7.8
薬剤師	6	7.8	5	6.5
理学・作業療法士	4	5.2	0	0.0
臨床検査技師	3	3.9	3	3.9
診療放射線技師	3	3.9	0	0.0
養護教諭	2	2.6	1	1.3
その他	6	7.8	3	3.9

(39.0%)で最も多く(内訳:保健婦7名、助産婦6名、看護婦27名、准看護婦5名)、次いで医師・歯科医師が6名(7.8%)、薬剤師が5名(6.5%)の順であり、95年入学生と同様である。表1の職種以外のその他の職種としては、栄養士、獣医師、医療秘書を記述している。

9) 看護職を希望するにあたって、

(1)最も影響を受けたこと等は、表2-1のとおり、家族の入院が最も多く18名(23.4%)、次いでテレビ・新聞・週刊誌等13名(16.9%)、病気・怪我の体験12名(15.6%)である。その他のこととしては、自分の入院、ボランティア、資格がほしいので、不景気だから、自分の適性、昔から気づいていた等と記述している。今回の新たな設問である。

(2)最も影響を受けた人は、表2-2のとおり、母親14名(18.2%)が最も多く、次いで友人・知人13名(16.9%)、親戚8名(10.4%)となっており、95年入学生と同様である。父親

(3名)や教員(6名)は、昨年と同様に大きな影響を与えてはいないようである。その他として、自分でが4名、影響を受けた人はいないが2名、分からないが1名、印はつけたが具体的な記述はないのが6名、そのほかに看護婦をみて(5名)、テレビ中の看護婦(3名)等と合計21名(27.3%)記述している。95年入学生の場合も自分で決めたが12名(15.6%)、特になしが4名(5.2%)等と記述している。特定の他人の影響よりは、自分で希望したという意識が強いのか、設問が適切でなかったのか、今後とも動機づけの把握の観点から注目していきたい。

10) 進学のための予備校での学習は、ありが43名(55.8%)、なしが34名(44.2%)で、95年入学生の、あり54名(70.1%)よりは低下している。学習分野は表3のように、看護専門、医療関係、理系コースそれぞれ15名(34.9%)であるが、看護専門分野の学習経験者の割合が、同様に昨

表2-1 看護職を希望するにあたって影響を受けたこと

影響を受けたこと	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
一日看護体験	-		7	9.1
病気・怪我の体験	-		12	15.6
家族の入院	-		18	23.4
友人・知人の入院	-		3	3.9
テレビ、新聞、週刊誌等	4		13	16.9
小説・伝記等	-		1	1.3
看護職の人と接して	-		9	11.7
その他	-		9	11.7

表2-2 看護職を希望するにあたって影響を受けた人

影響を受けた人	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
父親	1	1.3	3	3.9
母親	15	19.5	14	18.2
兄弟、姉妹	6	7.8	3	3.9
祖父母	5	6.5	5	6.5
親戚	8	10.4	8	10.4
教員	2	2.6	6	7.8
友人・知人	9	11.7	13	16.9
その他	3	3.9	21	27.3

表3 予備校での学習分野（複数回答n=43）

予備校での学習分野	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
予備校通学経験者数	54	100.0	43	100.0
看護専門	23	42.6	15	34.9
医療関係	12	22.2	15	34.9
理系コース	18	33.3	15	34.9
文系コース	7	13.0	2	4.7
その他	3	5.6	4	9.3

表4 他の学校の受験状況（複数回答n=77）

受験した学校	人数	構成比(%)	内 訳		
			看護系	その他	未記入
四年制大学	31	40.3	22	10	2
短期大学	42	54.5	40	7	0
専門学校	37	48.1	35	2	0
その他	0	0.0	0	0	0
他大学を受験した	60	77.9%			
他大学を受験しない	17	22.1%			

年に比して低下の傾向を示している。いずれも推薦入学制度の影響を伺わせる。

- 11) 他の学校の受験状況は、受験したが60名(77.9%)、受験しないが17名(22.1%)である。95年入学生は全員が他校を受験しており、96年入学生の他校受験率の低下は、推薦入学制度の影響をかなりはっきり示していると思われる。他校の受験状況の内訳は、表4のとおり、短期大学を受験しているのが最も多く42名(54.5%)、次いで専門学校37名(48.1%)、4年制大学31名(40.3%)となっている。95年入学生の短期大学65名(84.4%)、専門学校46名(59.7%)、

4年制大学46名と同様な傾向を示している。

- 複数受験した学校の組合せは、表5のとおり、学生の受験行動は、短期大学と4年制大学を受験した群(27名、35.1%)と、短期大学と専門学校を受験した群(20名、26.0%)、短期大学と4年制大学それに専門学校を受験した群(12名、15.6%)の3群に概略区分できそうであることは、95年入学生の場合とほぼ同様である。
- 12) 本短大についての情報入手は表6のとおりで、受験雑誌が最も多く50名(64.9%)で、次いで予備校17名(22.15)、教員14名(18.2%)の順である。予備校での情報入手の割合が少し増加

表5 複数受験した学校の組合せ

学校の組合せ	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
当短期大学のみ	-	-	17	22.1
四年制大学のみ	4	5.2	6	7.8
短期大学のみ	3	3.9	4	5.2
四年制大学と短期大学	23	29.9	18	23.4
四年制大学と専門学校	1	1.3	7	9.1
短期大学と専門学校	21	27.3	20	26.0
四年制大学、短大と専門学校	18	23.4	5	6.5

表6 本短大についての情報の入手先

情報の入手先	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
教員(先生)	11	14.3	14	18.2
先輩・知人・友人	-	-	8	10.4
家族	8	10.4	7	9.1
受験雑誌	48	62.3	50	64.9
進路オリエンテーション	2	2.6	6	7.8
新聞から	7	9.1	2	2.6
予備校で	10	13.0	17	22.1
その他	3	3.9	2	2.6

しているのは本学の開設が2年目のためであろう。全体的に昨年と大差はないようである。

- 13) 本短大を希望した理由(複数回答)は、表7のとおりで、「公立で学費が比較的高額でないから」が67名(87.0%)で最も多く、次いで「看護系専門学校より短大のほうに魅力があるから」48名(62.3%)、「自宅から通学できるから」33名(42.9%)、「受験科目が自分に相応」32名(41.6%)、「新しい短大だから」30名(39.0%)、「本短大の学校案内の教育内容をみて」28名(36.4%)となっている。95年入学生に比較して「自宅から通学ができるから」を理由にしているのが23名(29.9%)から33名に増加しているが、3)で述べたように実際に自宅から通学している者が特に増加していることはなかった。このほか

全体として、本学選択の理由について、昨年と大きな変化はなく「新設の公立短大」といことが大きな理由と言えそうである。

- 14) 卒業後の進路については、表8のとおり、進学希望者が35名(45.5%)、卒業後看護婦として就職するが24名(31.2%)、まだ決めていないが16名(20.8%)である。95入学生と比較して進学希望者が減少し、就職希望者の増加の傾向がみられるが、推薦入学制度と関係があるかどうか、しばらく経過を見る必要がありそうである。全体として進学希望者が多い傾向は両年度とも同様である。

進学希望分野は、表9のとおりで、保健婦課程が17名(48.6%)で最も多く、次いで看護系大学への編入11名(31.4%)、助産婦課程9名(25.4%)の順になっている。95年入学生と比較

表7 本短大を希望した理由(複数回答n=77)

希望した理由	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
自宅から通学できるから	23	29.9	33	42.9
近くに親戚が住んでいるから	3	3.9	8	10.4
公立で学費が比較的高額でないから	63	81.8	67	87.0
四年制大学進学希望であったが家庭の事情が許さない	5	6.5	4	5.2
受験科目が自分に相応しかったから	36	46.8	32	41.6
学力が自分に相応しいから	16	20.8	32	41.6
両親や先生が勧めてくれたから	10	13.0	14	18.2
先輩・友人・知人が勧めたから	-	-	1	1.3
本短大の学校案内の教育内容をみて	15	19.5	28	36.4
新しい短大だから	28	36.4	30	39.0
看護系専門学校より短大の方に魅力があるから	42	54.5	48	62.3
幾つかの学校を受験したが、合格したのはこの短大だけ	26	33.8	11	14.3
ただ何となく受験してみた	7	9.1	1	1.3
その他	7	9.1	3	3.9

表 8 卒業後の進路

卒業後の進路	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0
看護婦として就職する	17	22.1	24	31.2
進学する	42	54.5	35	45.5
まだ決めていない	17	22.1	16	20.8
その他	1	1.3	2	2.6

表 9 進学希望分野

進学希望分野	95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
進学希望者数	42	100.0	35	100.0
保健婦課程	24	57.1	17	48.6
助産婦課程	14	33.3	9	25.7
養護教諭課程	5	11.9	3	8.6
看護系大学への編入	20	47.6	11	31.4
その他（看護系以外）の大学への編入	5	11.9	3	8.6
外国留学	6	14.3	1	2.9
その他	4	9.5	0	0.0

して、外国留学希望者が0名になった点以外は、希望分野の傾向に変化はみられないようである。

- 15) 本短大を受験するまでに希望していた職業の種類を、第三希望まで求めた結果は、表10のとおりである。看護職希望が75名（97.4%）で圧倒的に多く、次いで養護教諭18名（23.4%）、

薬剤師16名（20.8%）、教員12名（15.6%）、保母、介護福祉士がそれぞれ10名（13.0%）の順である。95年入学生に比較して、看護職（95年は69名）、養護教諭（12名）、薬剤師（9名）、介護福祉士（3名）が増加し、保母（15名）、栄養士（11名）が減少している。第一希望の職業は、表10のとおり看護職が50名と圧倒的に多

表10 本短大を受験するまで希望していた職業（重複回答n=77）

	人数	構成比(%)	第一希望	第二希望	第三希望
看護職	75	97.4	50	18	7
保健婦	22	28.6			
助産婦	9	11.7			
看護婦	43	55.8			
医師・歯科医師	6	7.8	2	2	2
薬剤師	16	20.8	3	10	3
臨床検査技師	6	7.8	1	3	2
理学・作業療法士	8	10.4	4	3	1
診療放射線技師	2	2.6	0	0	2
視能訓練士	0	0.0	0	0	0
養護教諭	18	23.4	6	7	5
栄養士	6	7.8	0	4	2
歯科衛生士	0	0.0	0	0	0
介護福祉士	10	13.0	1	6	3
保母	10	13.0	0	6	4
教員	12	15.6	2	3	7
獣医師	5	6.5	4	1	0
その他	9	11.7	4	2	3

表11 看護職希望の程度と希望の順位

	人数	構成比(%)	第一希望	第二希望	第三希望	不明
総数	77	100.0	50	18	7	2
強く希望	37	48.1	34	3	0	0
出来れば	15	19.5	10	5	0	0
何となく	22	28.6	6	9	7	0
不明	3	3.9	0	1	0	2

いが、その他として、司書、音楽関係、カウンセラーの記述がある。第二希望としては、看護職18名、次いで薬剤師10名等の順であるが、その他として警察官の記述がある。第三希望のその他としては、カウンセラー、言語療法士、スチュワーデスの記述がある。

16) 看護職希望の程度は表11のとおりである。本短大を受験するまで看護職になることを「強く希望していた」のは37名(48.1%)、「できれば」看護職になりたかったのは15名(19.5%)、「なんとなく」看護職を考えていたのは22名

(28.6%)である。95年入学生のそれぞれ34名、15名、19名とほぼ同様である。看護職を第三希望の職業までに希望していなかったが本学に入学した者は2名(2.6%)で、95年入学生の8名(10.4%)より減少しておる。看護職希望者が推薦入学制度により本当に増加したのかどうか、経過を見る必要があるようである。

2. 看護婦・助産婦・保健婦のイメージ

1) 96年入学生の看護婦・助産婦・保健婦各々に対するイメージの測定値の平均は、表12のとおり

表12 看護婦・助産婦・保健婦イメージの平均値 ()内は有効回答数

		看護婦 (n=77)	助産婦 (n=77)	保健婦 (n=77)
好き	嫌い	1.6883 (77)	1.1053 (76)	1.2400 (75)
やぼったい	しゃれた	-0.2763 (76)	0.0132 (76)	-0.0526 (76)
特色のある	ありきたりな	2.0000 (77)	2.0000 (76)	0.9870 (77)
つまらない	楽しい	-1.2632 (76)	-1.3600 (75)	-0.7895 (76)
親しみ易い	親しみにくい	1.3766 (77)	1.4211 (76)	1.1974 (76)
うすっぺらな	深みのある	-2.0921 (76)	-1.9474 (76)	-1.1974 (76)
美しい	醜い	1.0658 (76)	1.0658 (76)	0.6184 (76)
粗野な	洗練された	-1.3816 (76)	-1.6184 (76)	-1.0000 (76)
わかりにくい	わかりやすい	-0.3684 (76)	-0.5000 (76)	0.0909 (77)
動的な	静的な	1.7632 (76)	1.1711 (76)	0.3947 (76)
暗い	明るい	-1.5395 (76)	-1.6842 (76)	-0.7763 (76)
強い	弱い	2.1184 (76)	2.1053 (76)	1.0526 (76)
繊細な	大胆な	0.2895 (76)	0.1053 (76)	0.1316 (76)
地味な	派手な	0.5921 (76)	0.4054 (74)	0.8684 (76)
のんびりした	はりつめた	-1.9079 (76)	-1.2105 (76)	0.7237 (76)
つめたい	あたたかい	-1.9481 (77)	-2.2763 (76)	-1.3947 (76)
軽い	重い	-1.5395 (76)	-1.3026 (76)	-0.4737 (76)
淡い	鮮やかな	-0.1447 (76)	-0.6842 (76)	0.0000 (76)
固い	柔らかい	-0.7600 (75)	-1.4211 (76)	-0.3684 (76)
不安定な	安定した	-0.8158 (76)	-1.0395 (76)	-1.2895 (76)
大きい	小さい	1.2763 (76)	1.3289 (76)	0.6447 (76)
複雑な	単純な	1.9610 (77)	1.3766 (77)	0.6623 (77)
狭い	広い	-1.4079 (76)	-1.1316 (76)	-0.8289 (76)
現実的な	幻想的な	2.2338 (77)	1.7662 (77)	1.8701 (77)

表13 中心点から離れた形容詞の比較

得点値 平 均	看護婦				助産婦				保健婦			
	95年入学生		96年入学生		95年入学生		96年入学生		95年入学生		96年入学生	
±1 以内	10項目	41.7%	7項目	29.2%	13項目	54.2%	5項目	29.2%	19項目	79.2%	16項目	66.7%
±1 以上	13	54.2	11	45.8	8	33.3	15	62.5	5	20.8	8項目	33.3
±2 以上	1	4.1	6	25.0	3	12.5	4	16.7	0		0	
計	24	100.0	24	100.0	24	100.0	24	100.0	24	100.0	24	100.0

りであり、平均値のプロフィールは、図1、2、3のような形を示し、96年入学生とほぼ同様のプロフィールであった。

2) 95年入学生および96年入学生の尺度の中心点から±1以上平均値が距離を持つ形容詞数は、表13のとおりである。

3) プロフィールの形で特徴的なことは、表13及び図1、2、3に示すとおり、保健婦の±1以内の平均値数におさまる形容詞数は、95年入学生の80%に比較し、96年入学生は63%とやや減少しているが、看護婦や助産婦に比較し、両年度生共に少ない中の中にイメージがおさまっている。

4) 両年度生の中心点より距離のある形容詞の上位5は、表14のとおりである。看護婦については、順位に変動はあるが、全く同じ形容詞であるのに比較し、助産婦と保健婦は、2形容詞の

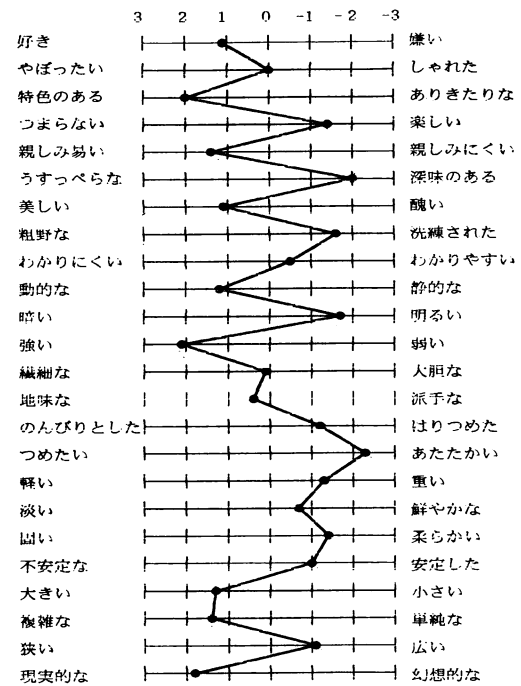


図2 助産婦イメージ

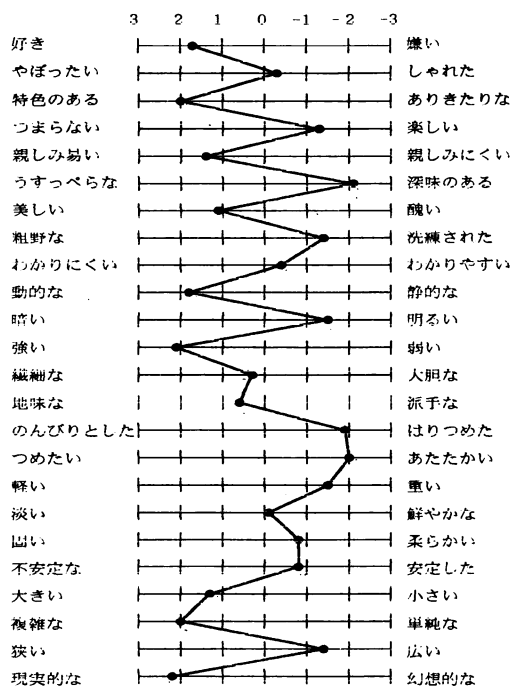


図1 看護婦イメージ

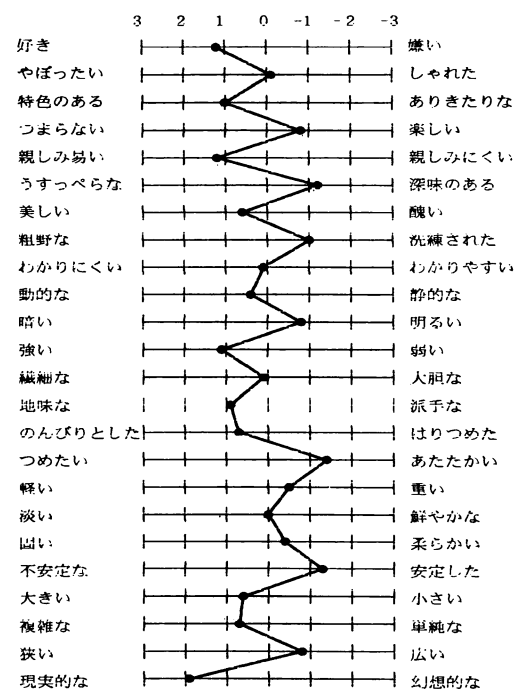


図3 保健婦イメージ

表14 中心点から離れた形容詞

n = 24

	看護婦	助産婦	保健婦
1位 95年入学生 96年入学生	あたたかい 現実的な	現実的な あたたかい	現実的な 現実的な
2位 95年入学生 96年入学生	特色のある 強い	動的な 強い	安定した あたたかい
3位 95年入学生 96年入学生	深みのある 特色のある	深みのある 特色のある	あたたかい 安定した
4位 95年入学生 96年入学生	強い 複雑な	強い 深みのある	特色のある 好き
5位 95年入学生 96年入学生	現実的な あたたかい	はりつめた 現実的な	深みのある 親しみやすい 深みのある

入れ替わりがある。また、保健婦については、上位3は、両年度生ともに全く同じである点に特徴がある。

- 5) 両年度生の中心点に近い距離にある形容詞の上位5は、表15のとおりである。看護婦については、中心点より距離のある形容詞の上位5と同様に、順位に変動はあるが、全く同じ形容詞である。助産婦・保健婦では、それぞれ1形容詞が入れ替わっているが、ほぼ同じである。
- 6) 医療関係者がいる・いないのイメージの影響は、表16にみられるとおりであるが、いる・いないによってイメージがプラス方向からマイナス方向へ、或いはマイナス方向からプラス方向に変わったのは、95年入学生では保健婦で、や

ぼったい・しゃれた・繊細な・大胆なにみられたのみであった。96年入学生では、看護婦1、助産婦2、保健婦3とすべての職種にみられる。

以上のことから考察されることは、

- 1) 両年度生の背景に多少の差はあるが、看護婦、助産婦、保健婦についてのイメージには大差なく、看護職に対するイメージは共通していることが伺われる。
- 2) 保健婦のイメージは、少ない巾の中にイメージが納まっており、更に、現実的な・安定した・あたたかいが、両年度生ともに3位内にあり、看護婦・助産婦に比較し固定されたイメージをもっているのは、保健所や健康管理室などで活

表15 中心点に近い形容詞

n = 24

	看護婦	助産婦	保健婦
1位 95年入学生 96年入学生	やぼったい・しゃれた 淡い・鮮やかな	やぼったい・しゃれた やぼったい・しゃれた	やぼったい・しゃれた 淡い・鮮やかな
2位 95年入学生 96年入学生	わかりにくい・わかりやすい やぼったい・しゃれた	わかりにくい・わかりやすい 繊細な・大胆な	わかりにくい・わかりやすい やぼったい・しゃれた
3位 95年入学生 96年入学生	繊細な・大胆な 繊細な・大胆な	繊細な・大胆な 地味な・派手な	繊細な・大胆な わかりにくい・わかりやすい
4位 95年入学生 96年入学生	淡い・鮮やかな わかりにくい・わかりやすい	淡い・鮮やかな わかりにくい・わかりやすい	淡い・鮮やかな 繊細な・大胆な
5位 95年入学生 96年入学生	地味な・派手な 地味な・派手な	固い・柔らかい 淡い・鮮やかな	固い・柔らかい 固い・柔らかい

表16 医療従事者がいる・いないのグループ別のイメージの平均値

()内は有効回答数

		医療従事者の有無					
		看護婦		助産婦		保健婦	
		いる (n=39)	いない (n=38)	いる (n=39)	いない (n=38)	いる (n=39)	いない (n=38)
好き	嫌い	1.5897	1.7895	1.0000	1.2162	1.2051	1.2778
やばったい	しゃれた	-0.2821	-0.2703	0.1026	-0.0811	-0.1026	0.0000
特色のある	ありきたりな	2.2051	1.7895	2.1316	1.8684	0.9744	1.0000
つまらない	楽しい	-1.2821	-1.2432	-1.5526	-1.1622	-0.8718	-0.7027
親しみ易い	親しみにくい	1.6923	1.0526	1.4872	1.3514	1.1538	1.2432
うすっぺらな	深みのある	-2.0256	-2.1622	-2.0769	-1.8108	-1.2308	-1.1622
美しい	醜い	1.1026	1.0270	1.2308	0.8919	0.6923	0.5405
粗野な	洗練された	-1.2564	-1.5135	-1.4615	-1.7838	-0.8462	-1.1622
わかりにくい	わかりやすい	-0.5385	-0.1892	-0.2051	-0.8108	-0.1282	0.3158
動的な	静的な	1.9487	1.5676	1.3077	1.0270	0.5128	0.2703
暗い	明るい	-1.6667	-1.4054	-1.5897	-1.7838	-0.8718	-0.6757
強い	弱い	2.2051	2.0270	2.2821	1.9189	1.0769	1.0270
繊細な	大胆な	-0.0513	0.6486	-0.1538	0.3784	0.2564	0.0000
地味な	派手な	0.6667	0.5135	0.6316	0.1667	0.9744	0.7568
のんびりした	はりつめた	-2.0256	-1.7838	-1.3333	-1.0811	0.5897	0.8649
つめたい	あたたかい	-2.0256	-1.8684	-2.4872	-2.0541	-1.4615	-1.3243
軽い	重い	-1.6154	-1.4595	-1.4872	-1.1081	-0.5897	-0.3514
淡い	鮮やかな	-0.0513	-0.2432	-0.6410	-0.7297	-0.0769	0.0811
固い	柔らかい	-0.7179	-0.8056	-1.4359	-1.4054	-0.4872	-0.2432
不安定な	安定した	-0.8205	-0.8108	-1.1795	-0.8919	-1.4359	-1.1351
大きい	小さい	1.4359	1.1081	1.2564	1.4054	0.6154	0.6757
複雑な	単純な	2.1795	1.7368	1.4615	1.2895	1.0000	0.3158
狭い	広い	-1.3333	-1.4865	-1.1282	-1.1351	-0.9744	-0.6757
現実的な	幻想的な	2.3333	2.1316	1.9231	1.6053	1.8205	1.9211

動し、夜勤がないなどの一般的な概念でイメージしていると推測される。

- 3) 他の調査との比較では、看護婦・保健婦について実施された文献がみあたらないので比較できないが、助産婦については、両年度生ともに、母性看護実習の経験のない看護学生のイメージに類似している。

3. キャリア発達

1) 進路決定の時期

95年入学生と96年入学生は表17のようであった。96年入学生は、小・中学時の進路決定者が、95年入学生に比べ8%多くなっている。高校1

年時の進路決定は反対に、95年入学生の約半分の割合になっており、96年入学生は小中学時の早期に進路決定している。95年度生と96年度生の進路決定時期の差を χ^2 検定でみたが、有為差は認められなかった。

2) 職場の選択

- (1) 将来働きたい職場の選択では、大学病院が95年入学生40.3%、96年入学生35.1%、一般病院が15.6%、18.2%、専門病院 2.6%、2.6%、産業看護、18.2%、6.5%、訪問看護7.8%、10.4%と、大きな差は見られなかった。96年3月に行われた全国¹⁾の看護学生の就職

表17 進路決定の時期 構成比(%)

進路決定の時期	総数		95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	154	100.0	77	100.0	77	100.0
小中学生	46	29.9	19	24.6	27	35.0
高校1年生	15	9.7	10	13.0	5	6.5
高校2年生	41	26.6	20	26.0	21	27.3
高校3年生	30	19.5	16	20.8	14	18.2
その他	22	14.3	12	15.6	10	13.0

表18 職業選択の条件

構成比(%)

職業選択の条件	総 数		95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	154	100.0	77	100.0	77	100.0
給料が高い	15	9.7	9	11.7	6	7.8
人間関係がよい	76	49.4	33	42.9	43	55.8
休暇が取れる	15	9.7	9	11.7	6	7.8
学習・研究が出来る	14	9.1	11	14.3	3	3.9
自分のやりたい看護が出来る	18	11.7	0	0.0	18	23.4
その他	16	10.4	15	19.5	1	1.3

実態調査において最も関心が高かった職域は「訪問看護」であり50%の学生が興味がある、と回答している。しかし、新卒ですぐではなく、「キャリアをつんでから」と回答していると記されており、今後調査する際、質問方法を検討する必要があると考える。いずれにしても学生の職場選択は、社会の変化に敏感に反応しており動向を追っていきたい。

- (2) 職場選択の条件では、表18のように95年入学生、96年入学生ともに人間関係がよいという、条件を最も強く志向している。今回、96年入学生では「自分のやりたい看護ができる」の項目を追加したため、両者の差を見ることはできなかった。先に示した、全国の看護学生の調査でも、職場を選ぶ時の最も知りたいことが病院の雰囲気・人間関係だったことから、看護学生の職場選択については、人間関係重視の傾向がみられる。

3) 職業継続の意思

- (1) 95年入学生と、96年入学生の結果は、表19であり、「仕事をできるだけ続けたい」が、95年入学生において高い傾向が認められるが、有意差はなかった。
- (2) 職業継続意思について、勤務している一般

ナース²⁾と、一般の女子と比較してみると表20のように、職業をできるだけ続けたい意思は、一般女子より本短期大学生の方が高く、本短期大学生より働いている看護婦の方がより継続意思が強い。このことから看護婦を志望するものは明らかに一般女子より職業継続意思が強く、その意思は更に看護婦として働き続けることにより強化されていくと、考えられる。しかし93年看護職員実態調査²⁾において、「看護職として仕事を続けたい」という比率は、20代前半の40.9%から年齢が高くなるにつれて増加する傾向があるが、逆に「看護職以外の仕事がしたい」と回答している者は、20歳前半の10.6%をピークに、年齢が高くなるにつれて減少しているという。20歳前半の看護婦の職業継続意識は、一般の女子よりはまだ高いが急速に一般女子に近づいているといっている。看護学生の職業継続意思についても、その推移は興味のあるところである。

4) 職業のイメージ

- (1) 職業に対するイメージを5段階で聞き、1～5点で配点した95年入学生と96年入学生の結果は表21のようであった。よいイメージの

表19 職業の継続意思

構成比(%)

職業の継続意思	総 数		95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
総数	154	100.0	77	100.0	77	100.0
結婚しても子供が出来るまで続けたい	12	7.8	4	5.2	8	10.4
子供が出来たら一時やめて子供の手が放れたら再就職したい	69	44.8	30	39.0	39	50.6
結婚しても、子供が出来ても、職業を続けたい	66	42.9	40	51.9	26	33.8
わからない	7	4.5	3	3.9	4	5.2

表20 職業の継続意思の比較（一般ナース、一般女子との比較）

職業の継続意思	本短大	一般ナース	一般女子
結婚しても子供が出来るまで続けたい	8.0	8.1	11.8
子供が出来たら一時やめて子供の手が放れたら再就職したい	50.6	27.5	62.0
結婚しても、子供が出来ても、職業を続けたい	33.8	57.4	20.5
わからない	5.2	6.9	5.6

1位、2位は、両者とも、やりがい、社会的貢献であり、3番目は95年入学生は仕事の専門性であり、96年入学生は、仕事の将来性であった。職業イメージ10項目中、仕事の将来性、仕事の内容、職場の環境、社会的貢献、職場の人間関係の5項目に有為差が認められた。

5) セルフ・エスチーム（S・E）

S・Eスケールは、心理学の領域で用いられている10項目の自己の肯定的、又是否定的態度を問うものである。スケールである。10項目について「そう」から「違う」の4段階の尺度に従って、1点から4点の点数化を行い、平均値と標準偏差を得た。

(1) 95入学生と、96年入学生の結果は表22のように、96年入学生の方が平均値が高い。この平均値は、95年度生は一般の青年女子³⁾の平均値25、より低かったが、96年入学生では、ほぼ一般女子の平均値に近い値になっている。両者において質問10項目中、「自分に満足」、「時々、まるでダメ」、「人がやれる程度にはできる」、「自分に対して前向き」の4項目に

有為差が認められた。

(2) 低得点群（19点以下）、通常得点群（20～29点）、高得点群（30点以上）の3群に分けて両者を比較してみると、表23のようであった。96年入学生は通常得点群への集中が認められるが、両者において検定した結果、有為差は見られなかった。

(3) 上記のように3群に分け、進路決定の時期と職業継続において同様に χ^2 検定を行ったが、いずれも有為差は認められなかった。

95年入学生と、96年入学生におけるS・Eの明らかな差は認められなかったが、菅⁴⁾によれば、YG性格検査との関係において、S・E得点の高い群は低い群よりも「情緒的安定」と「社会的適応」の傾向が有為に強いという。教育的関わりを考察する上でも、今後、他の関連因子についても検討したい。

IV. ま と め

昨年（1995年）に引き続き、本短大の1年生（96年入学生）（80名）を対象として、主な社会的背景及び卒業後の進路、職業イメージ（看護婦・助産婦・保健婦についてのイメージ）、キャリア発達について調査を行った。解答者は77名（女子74名、男子3

表21 職業選択の条件

職業イメージ	95年入学生		96年入学生		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
賃金・収入	3.01	1.28	3.039	1.292	
仕事の将来性	3.84	1.15	4.442	0.803	*
勤務時間	1.58	0.75	1.714	0.930	
仕事の内容	2.81	1.33	3.208	1.080	*
職場の環境	2.54	0.92	2.922	0.885	*
社会的な評価	2.81	1.33	3.195	1.298	
仕事の専門性	4.13	0.96	4.416	0.937	
社会的貢献	4.55	0.67	4.753	0.542	*
やりがい	4.70	0.56	4.870	0.522	
職場の人間関係	2.54	0.75	3.338	0.883	*

* 5%有意差あり

表22 Self-Esteem得点 (n=77)

自尊尺度項目	95年入学生		96年入学生		* 5%有意差あり
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自分に満足	1.68	0.73	1.961	0.785	*
時々まるでダメ	1.77	0.86	2.169	0.938	*
いくつか見所がある	2.63	0.87	2.779	0.853	
人がやれる程度にはできる	2.75	0.76	3.052	0.647	*
余り得意に思うことがない	2.29	0.96	2.390	0.920	
時々自分が役立たずと感じる	2.32	0.91	2.325	0.910	
他人と同じレベルに立つだけの価値がある人間だ	2.82	0.88	2.987	0.752	
もう少し自分を尊敬できたならばと思う	1.94	0.90	1.857	0.869	
いつでも自分を失敗者だと思いがち	2.72	1.00	2.816	0.934	
自分に対して前向き	2.68	1.00	3.078	0.739	*
得点合計	23.59	5.87	25.377	5.518	

名)で回答率は96.3%であった。昨年と異なった点として、96年入学生から新たに推薦入学制度を設け、16名が推薦で入学している。

1. 96年入学生の平均年齢と20歳未満の全体に占める割合が、95年入学生に比較して若くなっており推薦入学制度の影響を伺わせる。
2. 96年入学生で短期大学以上の学校を卒業した者は、95年入学生より多く、4年制大学の卒業生が4名いる。
3. 通学に要する時間は、短縮の傾向がみられ、推薦入学制度の影響を伺わせる。
4. 進学のための予備校での学習経験者は、95年入学生より少なく、看護専門分野も同様であり推薦入学制度との影響を伺わせる。
5. 96年入学生の他の学校の受験率は低下しており、推薦入学制度の影響を示している。
6. 卒業後の進路は、進学希望者が最も多いが、95年入学生に比較して減少している。
7. 本短大を受験するまで、看護職を第三希望の職業までに希望していなかったが、本学に入学した者は、95年入学生に比較して減少しており、推薦入学制度との関連から経過を見る必要がありそうである。

8. 看護婦・助産婦・保健婦各々のプロフィールは、両年の入学生ともに類似している。

9. 保健婦のプロフィールでは、平均値±1.00以内の形容詞数が95年入学生80%、96年入学生 67%を占め、両年の入学生ともに看護婦、助産婦に比較し、狭い幅の中に収まっている。

10. 中心点より距離のある形容詞の上位5位にみられる特徴として、看護婦は順位に変動はあっても全く同じ形容詞である。また、保健婦は3位までが全く同じ形容詞であるとともに、看護婦や助産婦にはみられない形容詞「安定した」が、95年入学生で2位、96年入学生で3位を占めている。

11. 進路決定時期は、96年入学生は、95年入学生に比べ小・中学の早期に進路決定をしている傾向があったが有意差は認められなかった。

12. 職場の選択条件では、95年入学生、96年入学生ともに、最も重視しているものは人間関係であった。

13. 職業継続意志は、「できるだけ続けたい」の意思是、95年入学生のほうが高かったが、有意差は認められなかった。

14. 看護婦のイメージでは、10項目中、5項目に有意差が認められ、昨年と今年の入学生における看

表23 Self-Esteem得点

構成比(%)

Self-Esteem得点	総 数		95年入学生		96年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	154	100.0	77	100.0	77	100.0
低得点群(19点以下)	30	19.5	21	27.3	9	11.7
通常得点群(20～29点)	93	60.4	42	54.5	51	66.2
高得点群(30点以上)	31	20.1	14	18.2	17	22.1

護婦のイメージの変化がある。

15. 自尊感情では、95年入学生の総得点の平均値は、23.5であり、96年入学生では、25.3と高くなり、一般青年女子の値に近くなっている。両年の間には4項目において有意差が認められた。

V. おわりに

昨年に引き続いて、本学学生の職業に対する意識を調査し、入学年次による変化を知る ことができた。今後どのように変容・発達していくか追跡調査を実施し、教育課程の編成 や指導方法の改善の資料として活用したい。

引用文献

- 1) 看護学生の就職状況にも厳しさ—就職実態調査から分かること、Nursing-today, 11 (2), pp. 63-66, 1996
- 2) 日本看護協会・調査研究報告：'93看護職員実態調査、pp. 57-61, 1995
- 3) 管佐和子：S.E. について、看護研究、17 (2), 21-7, 1984
- 4) 3) に同じ
- 5) 宮岡久子：卒後1年目看護婦の仕事の満足度と Self-Esteem、看護管理、4 (6), pp. 348-354, 1994

参考文献

- 1) 井澤方宏ほか：看護学生の職業に対する意識調査、川崎市立看護短期大学紀要、1, pp. 1-12, 1996
- 2) 國岡照子ほか：学生の保健行動に関する研究—健康観、医療についての関心度、理解度、日常生活行動—、川崎市立看護短期大学紀要、1, pp. 13-21, 1996
- 3) 松村恵子、青木康子：看護学生における助産婦志望の背景、日本助産学会誌、8 (2), pp. 77-80, 1995
- 4) 永田忠夫：S. D. 法による「看護婦」のイメージ分析、愛知県立看護短期大学雑誌、PP. 77-86, 1978
- 5) 渡辺美和子ほか：看護学校への志望動機と職業継続意識に関する意識調査、日本看護学会・看護教育、1995
- 6) 看護学生の就職状況にも厳しさ—就職実態調査からわかること Nursing-Today 11 (2) pp. 63-66, 1996

A Study on Nursing Students' Vocational Consciousness

— A comparison according to the years of enrollment —

We inquired of the first grade students (who entered our college in the year 1996, to be referred to as '96 students from now on) of our college about their motive of entrance and postgraduate career profession images (nurse, midwife, public health nurse), thinking that in actual undertakings of education it is important to grasp the realities of students' social background and vocational consciousness. The first survey was conducted last year with the '95 students, and this is the second report of the similar survey conducted with the '96 students. The '96 students included those who were admitted through a newlydevelopped recommendation system.

The findings show that: 1) The average age of the '96 students was lower than that of the '95 students. There were also decreases both in the number of students who attended preparatory schools, and in the number of students who also took entrance examinations to other colleges. On the other hand, an increasing number of students wished to enter the world of nursing in '96. We assume that the newly-adopted recommendation system had much to do with these changes. 2) An increasing number of students had higher educational background. 3) The greatest percentage of the students wished to proceed to higher education, although the percentage was a little smaller than that of the '95 students. 4) The average values associated with the image of nurses, that of midwives, or that of public health nurses were similar to those of the '95 students. 5) The average values as computed by the choice of adjectives representing the image of public health nurses remained within the range of ± 1.00 . The value ranges were smaller in nurses or midwives. The average values of the 80% and 67% of the selected adjectives stayed within this range in '95 and '96 surveys, respectively. 6) Many of the '96 students decided their vocational careers as early as elementary or junior high school ages, although there was no statistically significant differences between the '95 and '96 students. 7) There were significant differences in five out of 10 items concerning the image of nurses in both '95 and '96 students. 8) The average score representing the '95 students' self-esteem was lower compared to that of the female students in the general public, although that of the '96 students was just about the same as that of the female students in general.

keywords Student's Social Background
 Postgraduate Career
 Vocational Image
 Career Maintainance
 Self-Esteem